

教育的価値	具 体 の 項 目	教育課程
2【かかわる】	⑭復旧・復興への歩み	総合的な学習の時間
3【そなえる】	⑮東日本大震災津波の様子と被害の状況 被災地を訪問することにより現状を把握し、現地の人達との交流などを通して自分たちができることは何かを考え、全校に発信していく。	

【題材】

東日本大震災被災地の大船渡・陸前高田訪問
長洞元気村の方々との交流（陸前高田市）

【対象】

5・6年生児童全員（48名）

【実践の概要】

1 事前学習

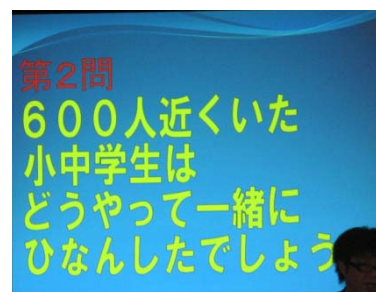
5月8日(木)に、被災地勤務経験のある教育委員会職員を講師に招き、4年生以上の児童を対象として「東日本大震災から学ぶ」という演題の講話を聞く時間を設けた。かつて勤務した釜石の学校で被災した経験をもとにして、被災した当時の様子や気持ち、教師と生徒が工夫や協力をして学習ができるようにしたことなどを、分かりやすく伝えていただいた。右の写真のようなクイズを出したり、大震災発生当時の写真を示したりしながら話を進めていただいた。

講話の最後に講師が話された「身近なところから、細くとも息の長い支援を。思いは同じ岩手っ子。」という言葉が心に残った。

2 被災地訪問

第1回被災地訪問を、6月24日(火)に行った。ねらいは、「東日本大震災において被害が大きかった沿岸地域の現状を把握し、自分たちができることは何かを考えて実行するためのきっかけ作りをする。」と設定した。

被災地の現状を把握するための見学は、越喜来小跡地、道の駅タピック45、陸前高田市街地で行った。それぞれの見学地について、震災前と震災後の現在の様子を比較してとらえられるように、見学のしおりには震災前の見学地の写真を載せておいた。児童は、しおりの写真と現在の姿を見比べ、その違いの大きさに衝撃を受けていた。そして、復興学習に関わる自分なりの課題をもてたようであった。



児童の感想

旧道の駅タピック、その後に行った陸前高田駅では、周りの商店街も何もなくて、ただただびっくりしました。とてもしょうげき的な現実でした。タピックでは、建物に木が流れ入り、何もかもがこわれていました。東日本大震災の津波は、陸前高田市の堤防を越えていろいろなところに被害をもたらしたことが分かりました。

第2回被災地訪問は、9月11日(木)に行った。ねらいを、「東日本大震災の救援・復興に関わっている方から話を聞き、復興に取り組む人々の思いや願いに触れることにより、小学生の自分たちにできることや今しなければならぬことは何かを考える。また、自分たちの防災についても考える。」と設定した。

訪問では、陸前高田市の長洞元気村という団体にご協力いただき、海岸のごみ拾いボランティアと地元の方々との交流、「いきる・かかわる、そなえる」をテーマにしたお話を聞くことに取り組んだ。

海岸のごみ拾いボランティアでは、津波で流されてきたと思われるごみの量と種類の多さに、児童は驚いていた。講演では、震災当時自分の身は自分で守ったこと、津波被害を受けた直後の一番つらい時期を集落の人達が力を合わせて乗り切ったこと、現在は新しい長洞地区づくりを目指してがんばっていることなどが話された。困難に負けず、地区で結束して乗り切り、よりよい未来を目指している長洞地区の人々の姿に子どもたちは胸を打たれたようであった。



児童の感想

ぼくは、この学習と新聞作りを通して、まず、津波が人々に与える被害のすごさと大きさを知ることができました。今までは、津波を経験したことがなかったので、そこまで考えたことはなかったけど、この学習を通して震災をととても身近に感じられるようになりました。津波は、人々の生活をこわしたり、時には人の命までうばうことがあります。そして、津波が去った後でも、家や建物がこわれたり、田んぼがだめになります。東日本大震災からもう4年近くたっているけど、いまだに町や村の復興は進んでいません。なので、まずは自分の周りから少しずつ復興のために行動していこうと思います。

3 被災地支援活動

例年、児童会ボランティア委員会が中心となり、6月と11月に東日本被災者支援募金を行っている。今年も実施し、義援金を、横軸連携校である大船渡市立越喜来小学校に送金した。

また、本校では高学年の総合的な学習の中で米作りに取り組んでいるが、ここ数年学校田で収穫した米を、越喜来小学校に送っている。米を送る際には、米の袋に「ハピネス米」という文字を入れたステッカーを貼るとともに、手紙を添えることで、送り手の思いが伝わるように工夫している。越喜来小学校から届いた感謝の手紙は昇降口ホールに掲示して、全校児童が見られるようにしている。



児童の感想

前は、募金の意味を深く考えなかったのですが、知らないふりをして募金箱のそばを通り過ぎたこともありましたが、今では、進んで募金活動に参加するようになりました。これからも、震災で被害を受けた方々に、少しでも役に立つ活動に積極的に参加していきたいです。

4 被災地学習発表会（2月上旬実施予定）

児童が被災地訪問を通して学んだことを発表し、全校に広める。

まとめ

今回の学習を通して、児童は被災地の実態を捉え、被災地の人達のために自分ができることをしよう、自分の学校や地域も今まで以上に力を合わせて良くしていこうという意欲をもつことができた。